

# 富士大破り11季ぶり頂点 八学大 2回一気5点



【富士大―八学大】2回八学大1死満塁、右越え本塁打を放った北畠隼人（右）がホームイン＝青森県営

**北東北大学野球**  
北東北大学野球春季リーグは18日、各地で1〜3部の計8試合を行った。1部の八学大は富士大に5―13で勝利。通算成績は8勝1

分けて、2013年秋季リーグ以来11季ぶりのリーグ優勝を決めた。2部の八学大は弘前大に4―7で敗れた。19日も各地で1〜3部の計8試合を行う。  
（里村静）  
▽第5週第1日青森県営球場

青森大（5勝4敗）	000002200	04
ノース大（1勝8敗）	000000000	04
（青）長谷川、瀧藤、小谷、山崎		
（白）野田、野田、日野、中田		
成田、杉野		
▽本塁打 蝦名（青）		
▽二塁打 原口、友利、吉堅（青）		
岩手大（2勝1分6敗）	01000020	23
000010001		
青中大（4勝5敗）	000000001	23

（岩）青野、大内		
（青）工藤、中村、滝田、倉田		
富士大（6勝3敗）	000300000	53
050000000		
000000000		
八学大（8勝1分）		
（白）金村、宇賀神、下地		
（八）大道、中道、大向、山本		
▽本塁打 北畠（八）		
▽二塁打 北畠（八）		

## 主将北畠 満塁弾で主導権

遠ざかっていた主座に、ようやく手が届いた。これまで10季連続でリーグを制していた富士大を下し、頂点に輝いた八学大。正村公弘監督は今季のリーグ戦、苦しい戦いを勝ち抜いて、しぶといチームになってくれた」と選手たちをねぎらった。

「一回、北畠隼人主将の一振りが試合をつくった。満塁で回ってきた打席で、とにかく後ろにつなぐ」と内角低めの直球を振り抜き、右翼席へアーチ。「一気に応援の声が大きくなっ

### ハイライト

て、入ったんだと思った」主将を任せられた今季は、チームの結果を考え続けてきた。自分の調子が良くなるときも、人一倍声を出して周囲を鼓舞。「チームのために行動し続けてきた」ことが打席で結果した。四回に2点差に詰め寄られて以降も流れを手放さなかった。「全員が自分の役割を考えながらプレーできていた（北畠）」。勝たなければ、ではなく「勝ちたい」。守りに入らず攻めていこう」という前向きな意識のたまものだった。

最終回、北畠は相手の先頭打者がアウトになった時から涙が込み上げていた。優勝が決まった瞬間、あふれてきたのは感謝の気持ち。「たくさん助けてもらったから、ありがたみが一番大きかった」。いったんマウンドに集まる仲間たちを眺めた後、喜びをかみ締めながらゆっくりと歓喜の輪に走り寄った。  
（里村静）